

本棚 ぶらり

いま、 『エコ』を考える



先頃の計画停電で、真っ暗な夜を体験し、電気のない生活の不便さを改めて実感した人も多かったことでしょう。それでは、電気やガスのない昔は、どうやって暮らしていたのでしょうか？

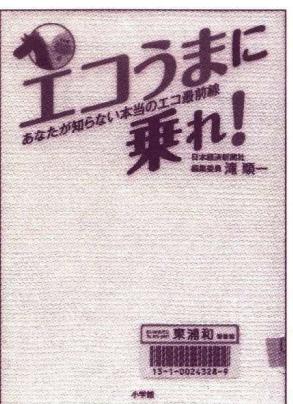
江戸時代では、舗装されていない道路は、土の特性を生かした天然の空調機でしたし、植物から作られたゆかたは、手を加えることで、寝巻き→オムツ→雑巾→燃料と、捨てることなく転用されていました。排泄物でさえ、肥料というエネルギーとして、売り買われていたというから驚きです。

本書では、多数の図版を用い、合理的でムダのない江戸の超エコ生活を紹介。質素な生活でも、結構楽しく暮らしていた江戸庶民の気質も垣間見え、面白く読めます。同時に、現代のエネルギー問題にも触れ、使い捨ての多い現在の私たちの生活が間違いではないかということに気付いてほしいという、著者の強いメッセージが感じられます。

あるいは、帆船は防人船を巡ったものを開拓するなど、日本古来の知恵を応用したものもあります。

もちろん、これらの技術にも、コストなど検討すべき課題がまだ残されています。また、新技術の導入に慎重になってしまふ日本人の国民性もあります。しかし、電気製品に依存した生活を続けていくには、このようないくつかの技術の更なる広がりが必要になつてくるでしよう。

環境に配慮しながら経済発展も可能なヒントが詰まつた興味深い一冊です。



大江戸えころじー事情
いしかわえいじゅう
石川英輔著
講談社 2000

工コうまに乗れ！

あなたが知らない本当の工コ最前線

工こうまに乗れ！
あなたが知らない
滝順一著 小学館

2009年
い本当の

福島第一原発の事故によりまだ解決をみない電力事情。

エネルギー・環境について

私たちはいま、さしつけられた課題として

考えるべき時を迎えていました。

そこで今回は、「エコ」(エコロジー)をテーマに

本をご紹介します。

育てておいしいはじめてのゴーヤー^{プラス}
八月社編 主婦の友インフォス情報社
十島やさい図鑑
2009

夏になると野菜売り場に並ぶゴーヤー。独特の苦味が魅力の野菜ですが、最近では食べる目的だけでなく、別の効果も期待して育てる方が増えています。

「緑のカーテン」をご存知でしょうか。家の軒先でアサガオを育てるなど、似たような光景は古くから見られましたが、電力消費を抑えつつ夏の暑さをしのぐ方法としていま注目されています。「ゴーヤーやヘチマなど、生育旺盛なつる植物を育てて自然のカーテンを作り出すと、葉の間を抜ける風は涼しく心地良く感じられます。ここには日陰ができるからだけではなく、生きている植物ならではの、納得の理由が隠されています。

本書は、ゴーヤーの育て方や緑のカーテンのつくり方、美味しい食べ方、そして沖縄の島やさいの数々を紹介しています。暑い夏を快適に過ごすヒントが見つかる一冊です。

夜は暗くてはいけないか 暗さの文化論